

洞爺湖サミットで採用

新連携3社の 環境配慮を重視

加しなくても3年間生育する。サミット会場近隣や国道230号、453号の沿線地域を中心に施工されている。

「ユミ『ゼロ』梱包材」による物流管理統合システム」は、スターウェイを中心に開発した家電製品修理の物流システム。繰り返し使える梱包材がサミットに必要な資材の輸送に活用されている。今回のサミット向けのほか、環境への配慮を重視した企業などで活用が広がっているという。

経済産業省が中小企業の異分野連携促進を目的に進める「新連携」用語参照」支援事業で完成した製品が、7月の主要国首脳会議（北海道洞爺湖サミット）で採用される。05年が12日分かった。05年の事業開始から3年が経過し、二



ースを見据えた製品開

発が奏功。それぞれの強みを生かした連携の成果が着実に始めている。採用が決まっているのはADM（北海道伊達市）、ケイシーエンジニアリング（札幌市東区）、スターウェイ（東京都港区）がそれぞれコア（中核）企業となる三つの連携体の製品。すべて「環境」がキーワード。ADMが中心となり完成した「超高強度鋼を用

いた超大型高気密仮設上屋」はサミット会場に設置する国際メディアセンターの建設現場で使用されている。設計の自由度が高く、作業現場の環境に配慮して利用できる。北海道伊達市、洞爺

町、豊浦町、壮町の1市3町が進める「街づくりに」事業の一環として、ケイシーエンジニアリングを中心に開発した「KGハープマット」は独自に混合した堆肥を床材にしているため、肥料を追

【用語】新連携05年4月に施行された中小企業新事業活動促進法に基づく施策。中小の異分野連携を促すのが眼目で、通称「新連携」と呼ばれる。複数の異分野の中小が「強み」を持ち寄り、新製品などに取り組む。計画認定されると、信用保証特例や特許料減免などの支援が講じられる。